

2023年11月吉日

日本スポーツ社会学会研究委員会
高尾 将幸

日本スポーツ社会学会研究セミナー開催のご案内

謹啓 時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、研究委員会では毎年研究セミナーを開催しております。参加は無料となっております。本学会会員のみならず、日ごろからスポーツや社会学に関心をお持ちの方々の参加もお待ちしております。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

日時：2024年1月27日（土）10時00分～12時00分

会場：Zoomによるオンライン開催

内容：スポーツをめぐる男性性権力とその交差性

概要

男性性問題とは、単なる男性“の”問題でもなければ、男性ジェンダーのこと“のみ”を指すわけでもない。「男性性」をめぐる私たちの認識は、男性以外のあらゆる側面（その他のジェンダーやセクシュアリティ、人種など）に影響を及ぼし、また及ぼされてもいる。本セミナーでは、スポーツにおける男性性という権力に新たな視点から取り組むことで、男性性の強度や可変性について議論を行っていく。

登壇者

報告者①：竹崎 一真（明治大学）

報告者②：岡田 桂（立命館大学）

指定討論者：関 めぐみ（甲南大学）

司会：山口 理恵子（城西大学）

参加希望の方は、1月25日（木）までに下記よりお申込みください。

<https://forms.gle/A4tk46jJsfNicRH79>

期日までに申し込みをされた方にのみ、ZoomのミーティングIDとパスコードをご連絡いたします。なおセミナーの内容は、期間限定でオンデマンド配信もいたします。オンデマンドをご希望の方も、上記のフォームよりお申し込みください。

問い合わせ先：竹崎一真（明治大学） jsss jimukyoku@gmail.com

報告 1

テストステロンの科学はどこへ向かうのか？ —多様化・多義化する「男性的」な物質の社会学—

竹崎 一真 (明治大学)

「男性ホルモン」と呼ばれるテストステロンは、男性をより逞しく、強く、そして大胆にする「男性のため」の物質だと信じられてきた。ところが、スポーツ医学や運動生理学をはじめとする現代のスポーツ科学の分野では、テストステロンはより広範な人々に影響を与えるものとしてさまざまな観点から理解されはじめている。しかしながら、そこで生産される知識は、女性アスリートの矮小化や DSD アスリートの非女性化、トランス女性アスリートの排除、人種性の強化といった、スポーツの世界における「近代的人間」規範の再生産ないし強化と密接に関わっている。本発表では、「テストステロン」の知識がスポーツ科学においてどのように生産され、変容してきたのかを大まかにマッピングし、科学技術研究 (STS) におけるフェミニスト新唯物論の視座を用いて分析することで、スポーツ科学によるテストステロンという物質の多様化と多義化がスポーツにおける近代的人間 (Man) の権力の裾野を拡大している可能性を浮かび上がらせる。

報告 2

ジェンダーをセクシュアリティから見つめ返す —スポーツ・男性性・ホモソーシャル連続体—

岡田 桂 (立命館大学)

社会において性的マイノリティを含めた多様性の受容への意識が高まる中、スポーツという領域は、その最前線のひとつとなっている。また、“LGBTQ” というカテゴリーの広まりとともに、セクシュアル・マイノリティである LGB と、ジェンダー・マイノリティとしての TQ は異なる存在であるとの認識が強調される局面も増えている。しかし、歴史的に考えても、ジェンダーとセクシュアリティは決してそれぞれが独立して理解されてきたわけではない。例えば E.セジウィックは、ジェンダーとセクシュアリティのあり方は、相互に関連しながら解釈し合う関係性にあり、なおかつその解釈は、近代以降常に揺れ動いてきた (一貫していない) ことを指摘している。本発表では、特にスポーツと関わりの深い“男性性 (男らしさ)” を中心として、それが必ずしも“男性ジェンダー” と一致するわけではないことを含め、ジェンダーとセクシュアリティが交差する関係性の概念である可能性について検討する。